

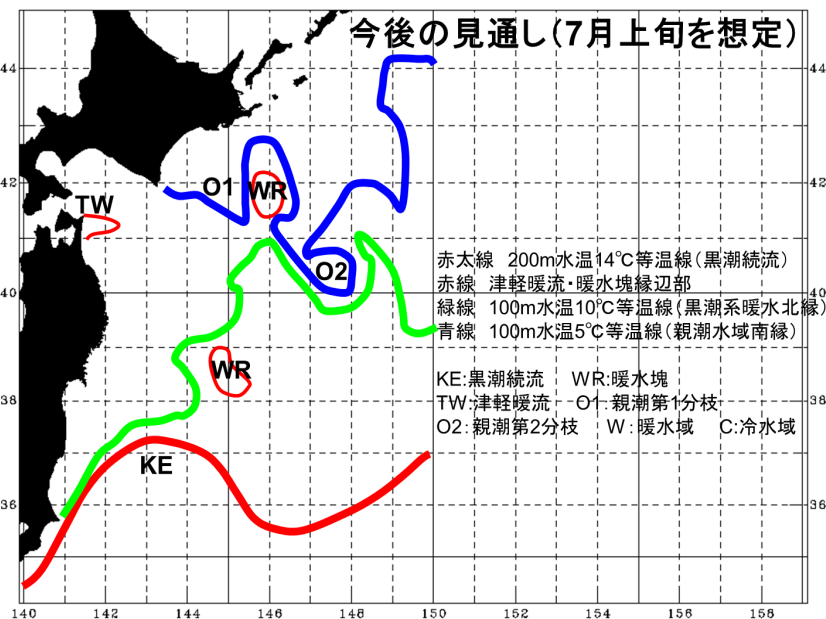


## 2026年度 第2回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2026年6月下旬～2026年7月上旬)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しはやや北偏～かなり北偏で推移する。
- ・ 常磐沖の暖水塊は停滞する。三陸沖、三陸はるか沖の暖水塊は消滅する。  
下北半島はるか沖に暖水塊が形成される。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構  
担当：海洋環境部（釧路） 奥西、東屋  
電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355  
当資料のホームページ掲載先URL  
<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

## 2026年度第2回東北海区海況予報

《今後の見通し（2026年6月下旬～2026年7月上旬）》

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移する。親潮第1分枝の張り出しはやや北偏～かなり北偏で推移する。常磐沖の暖水塊は停滞する。三陸沖、三陸はるか沖の暖水塊は消滅する。下北半島はるか沖に暖水塊が形成される。

《海況の経過（2026年4月～2026年5月下旬）の特徴》

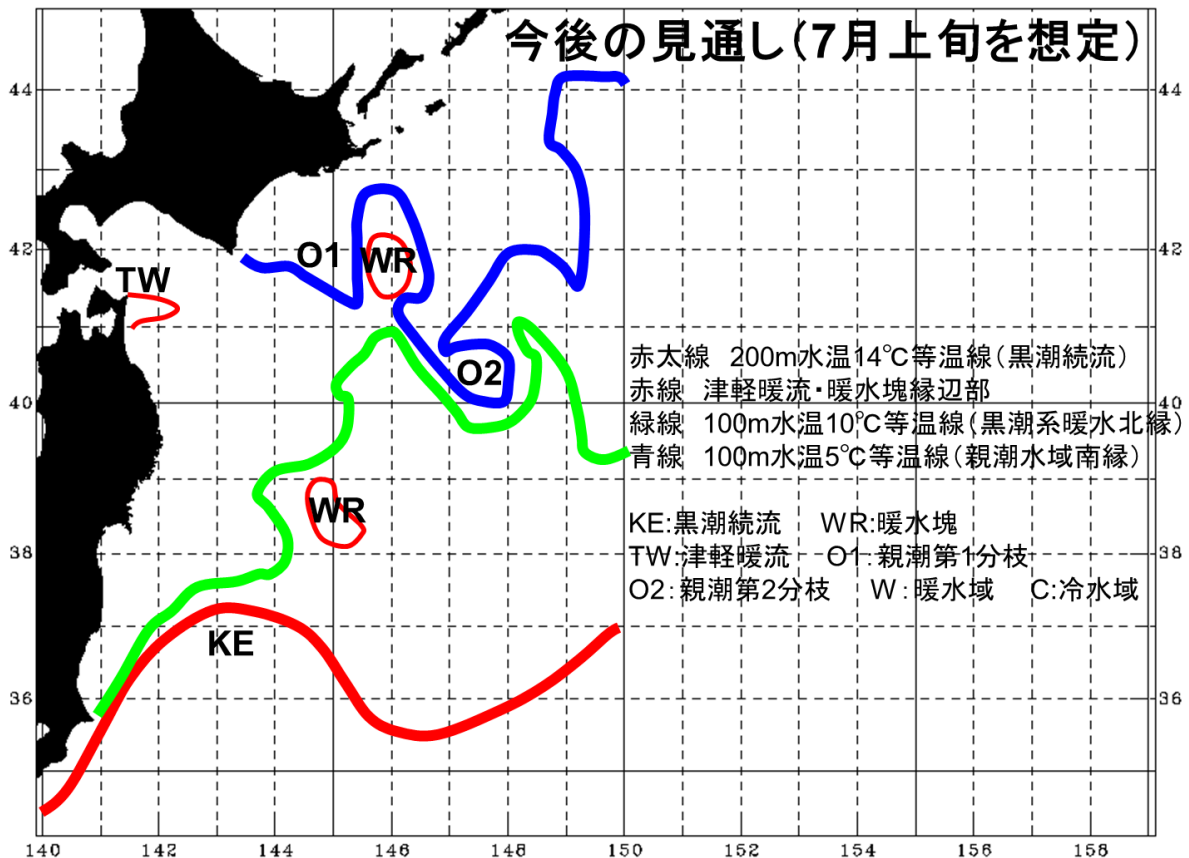
近海の黒潮続流の北限位置は平年並みで推移し、親潮第1分枝の張り出しはやや南偏～やや北偏で推移した。三陸沖の暖水塊は停滞した。三陸はるか沖と下北半島はるか沖の暖水塊は合体した。常磐沖に暖水塊が形成された。

《現況（2026年6月上旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏、親潮第1分枝の張り出しはやや北偏である。暖水塊が常磐沖、三陸沖、三陸はるか沖にある。

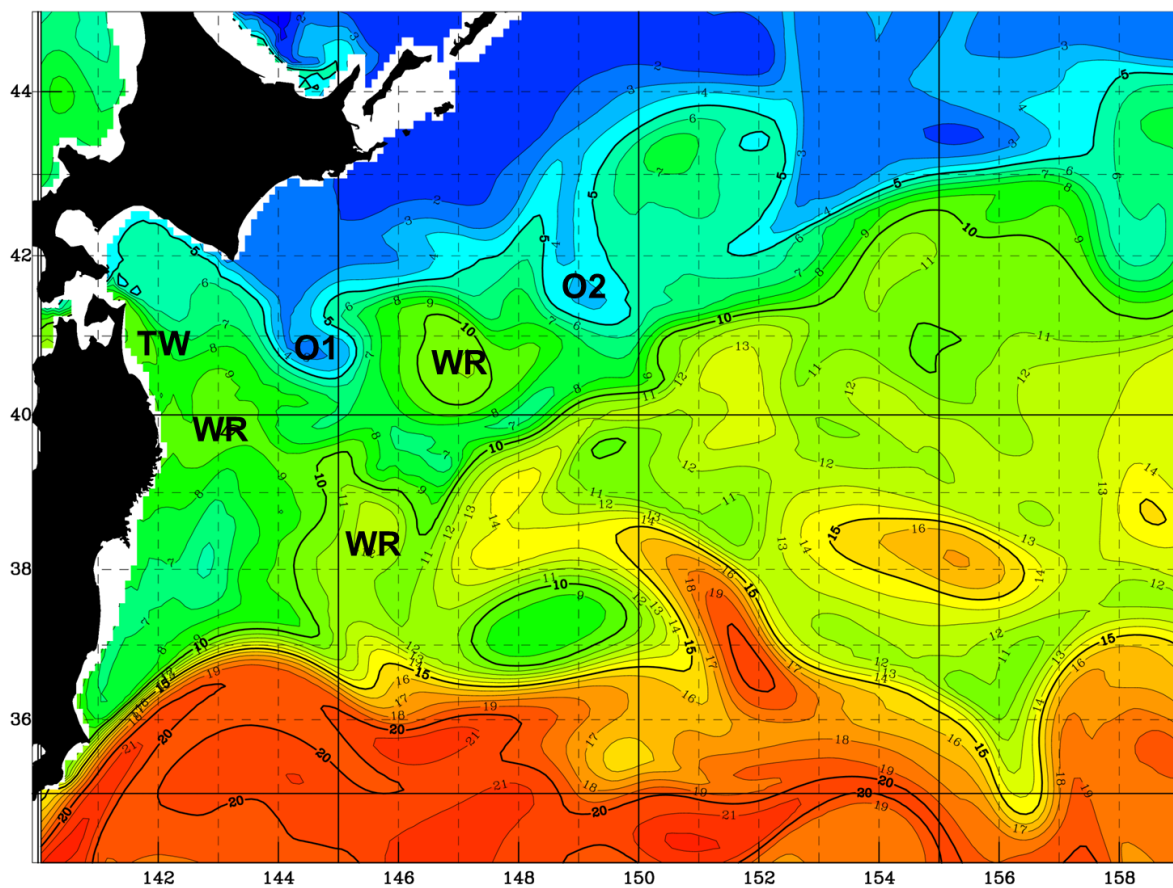
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMS II システムを用いた。FRA-ROMS II は、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

7月上旬予測水温分布図



6月上旬現況水温分布図（100m深）

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2026/0601 - 2026/0610



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊を表している。

## 参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--